

3. 植栽・景観の分析・評価

(1) 植栽

1) 計画対象地一帯の概況

計画対象地一帯の概況

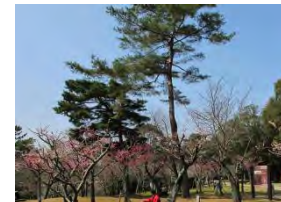
計画対象地一帯には、「春日大社の影響が大きいところ」「明治以降に形成されたところ」「自然要素の影響が大きいところ」という特徴的なエリアがあり、それが植栽・植生に色濃く反映されている。



春日大社同様にスギとイチイガシが多く、巨木が点在する。



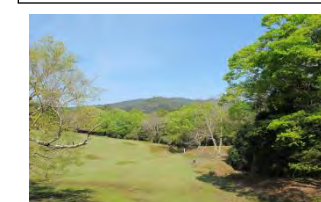
一之鳥居から尾根沿いは残存するマツ類が見られる。



明治以降公園整備によって、花木が多数植栽されている



率川沿いはケヤキ等ニレ類が多い



ナンキンハゼ純林



瑜伽山のシデ林



図：計画対象地一帯の植栽・植生

荒池園地：昭和40年代整備され芝地が広がる



3. 植栽・景観の分析・評価

(1) 植栽

2) 樹種区分別の分布

分布の傾向

- ・ 針葉樹は、春日大社参道から尾根部園路の間に多く分布している。
- ・ 常緑広葉樹は、全域に分布しており、特に尾根北斜面に多い。
- ・ 落葉広葉樹は、鷺池周辺と荒池園地に多く分布している。
- ・ 花木類は、尾根部園路周辺と尾根南斜面に多く分布している。

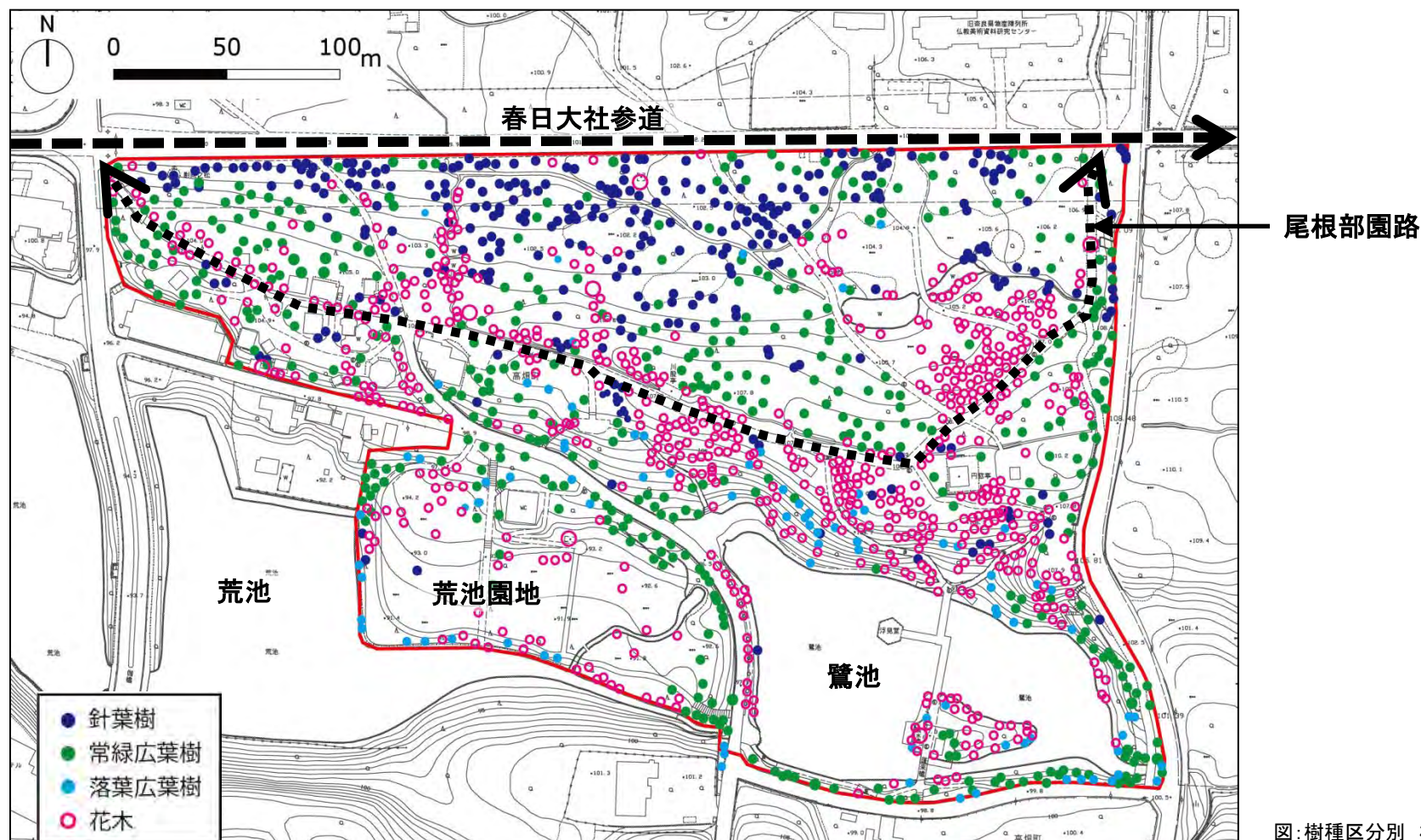


図: 樹種区分別 植栽分布

3. 植栽・景観の分析・評価

(1) 植栽

3) 針葉樹の分布と生育

分布

- ・スギが針葉樹本数の過半を占める。スギは大径木が多く、最大幹周は500cmである。
- ・スギ、モミ、ヒノキは、春日大社参道附近に多い。
- ・クロマツは、春日大社参道西端（一之鳥居附近）、尾根西寄り、荒池に分布している。
- ・アカマツは、尾根部南寄りに多く分布している。

生育

- ・マツ類を除いて、生育に問題はない。但し、シカの角研ぎ害が見られる。
- ・マツ類はマツ枯れによる枯死率が高く、年々減少している。

評価

- ・上位計画に従い、マツ類及びスギは保全・継承すべきである。
- ・参道付近の針葉樹クロマツ、モミ、ヒノキは、参道景観のため保全・継承すべきである。
- ・マツ類の衰退は、対応を検討する必要がある。
- ・イヌマキやカイズカイブキは不要樹木や過密樹木が多いため、見直しを行う。
- ・コウヨウザン（中国産外来種）は、奈良公園に不適な樹種と考えられる。

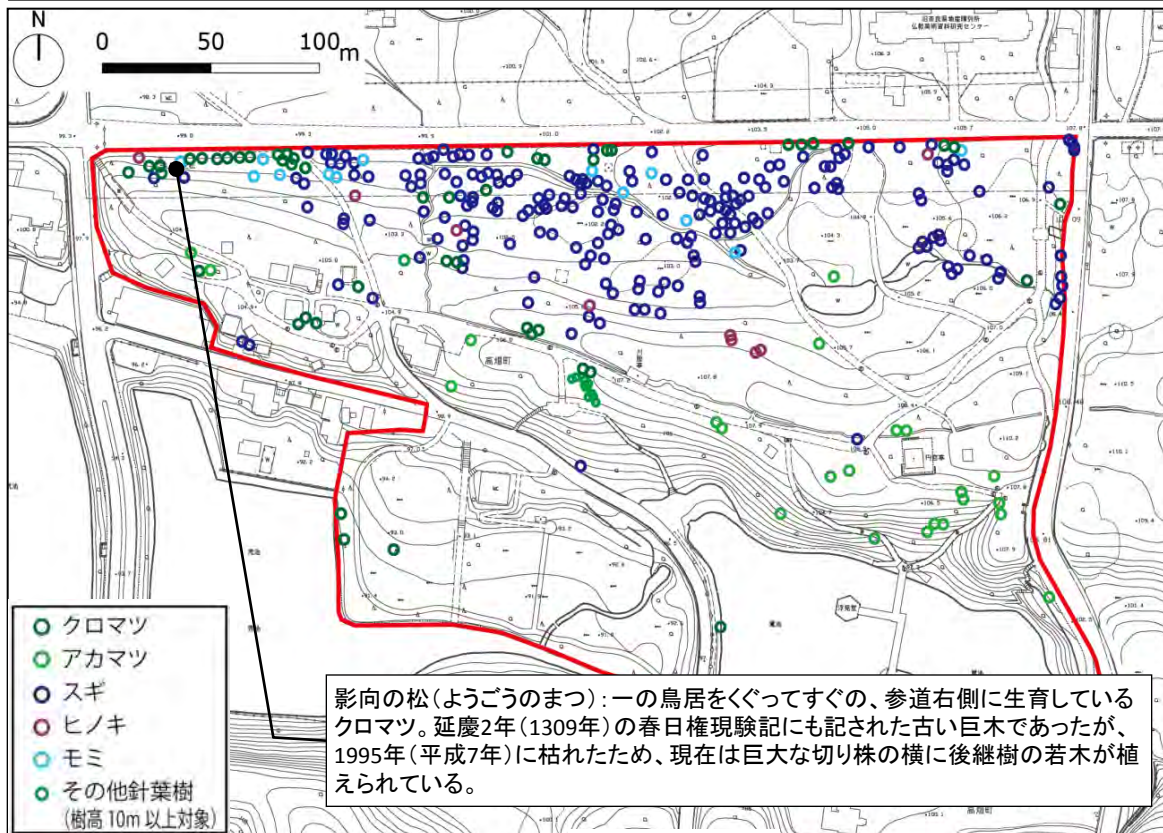


図: 針葉樹の分布

樹種	本数		
	全数	幹周 2m~	幹周 3m~
スギ	205	16	8
クロマツ	48	4	0
アカマツ	23	2	0
モミ	14	1	0
ヒノキ	8	2	0
コウヨウザン	1	0	0
以下、生垣、列植、剪定樹木			
イヌマキ	30	0	0
カイズカイブキ	3	0	0
イヌガヤ	1	0	0
合計	333	25	8

表: 樹種別本数



スギ林

スギ巨木

3. 植栽・景観の分析・評価

(1) 植栽

4) 常緑広葉樹の分布と生育

分布

- ・イチイガシは、常緑広葉樹の過半を占める。最大幹周は477cmである。分布は尾根部北斜面に多い。
- ・シラカシは、鷺池周辺、荒池園地北側の道路附近に多い。
- ・スタジイは、イチイガシの分布域に近い。
- ・クスノキは、春日大社参道、尾根部、荒池園地にまとまって分布している。

生育

- ・いずれの樹種も生育に問題はない。但し、シカの角研ぎ害が見られる。

評価

- ・北斜面のイチイガシやスタジイは、旧境内地の歴史的経緯を評価して、保全・継承すべきである。
- ・アラカシ、シラカシ、クスノキは、眺望や花木等との調和を前提に、保全・継承すべきである。
- ・キンモクセイ（中国産外来種）は、奈良公園の植栽種としての適性について検討が必要である。

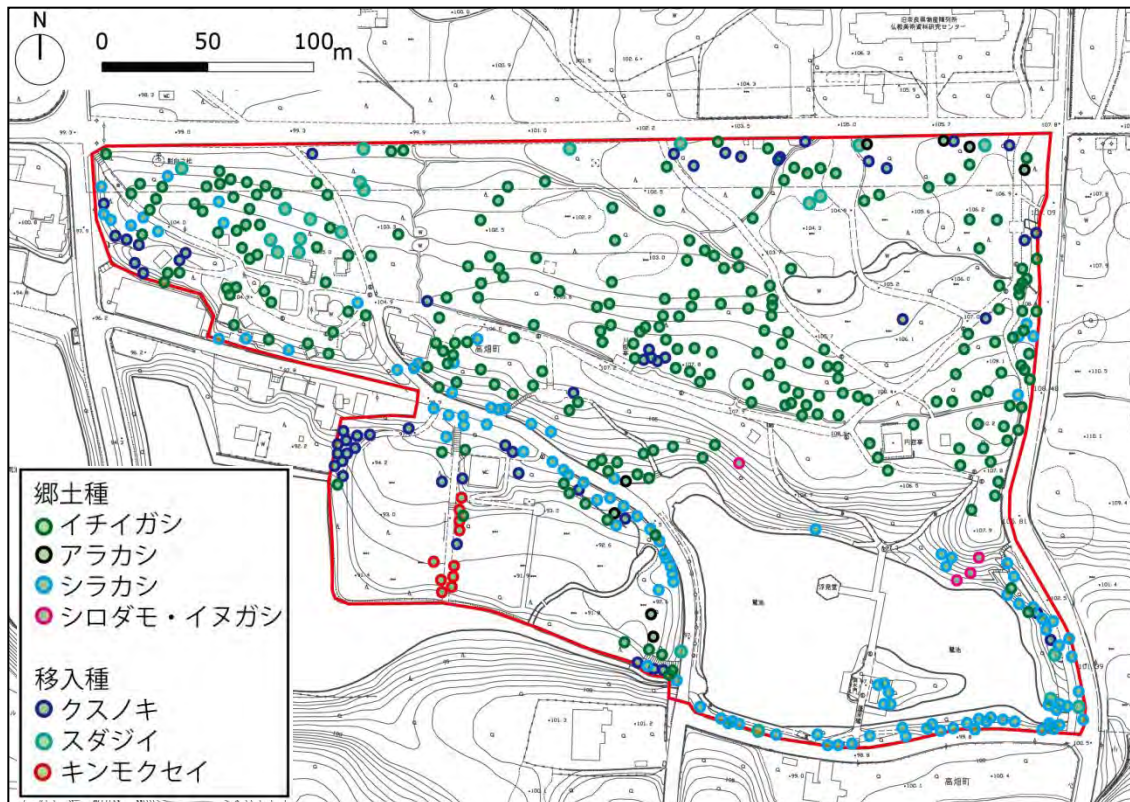


図:常緑広葉樹の分布

樹種	本数		
	全数	幹周 2m~	幹周 3m~
イチイガシ	249	36	2
シラカシ	120	11	1
クスノキ	60	17	1
スタジイ	22	13	
アラカシ	8		
イヌガシ	2		
シロダモ	2		
以下、列植、剪定樹木			
キンモクセイ	10		
ウバメガシ	1		
サカキ	1		
合計	475	77	4

表:樹種別本数



イチイガシ林

3. 植栽・景観の分析・評価

(1) 植栽

●資料: 大径木の経年的変化

本数 ・イチイガシとスギが飛躍的に増大、その他広葉樹も増大している。
 ・クロマツが大幅に減少している。

分布 ・基本的に分布域は変わらない。但し、クロマツは本数が大幅に減っており、2017年には東部の分布がほとんどなくなった。

表: 1980年と2017年の本数比較

樹種	1980 (S55年)	2017 (H29年)	変化率
クロマツ(幹周150cm以上)	38本	14本	-63%
クロマツ以外の針葉樹(幹周150cm以上)	22本	78本	+255%
イチイガシ(幹周90cm以上)	105本	230本	+119%
イチイガシ以外の広葉樹(幹周90cm以上)	184本	270本	+47%
参考: クロマツ(幹周150cm未満)	未調査	34本	-
参考: イチイガシ(幹周90cm未満)	未調査	19本	-

←スギ55本

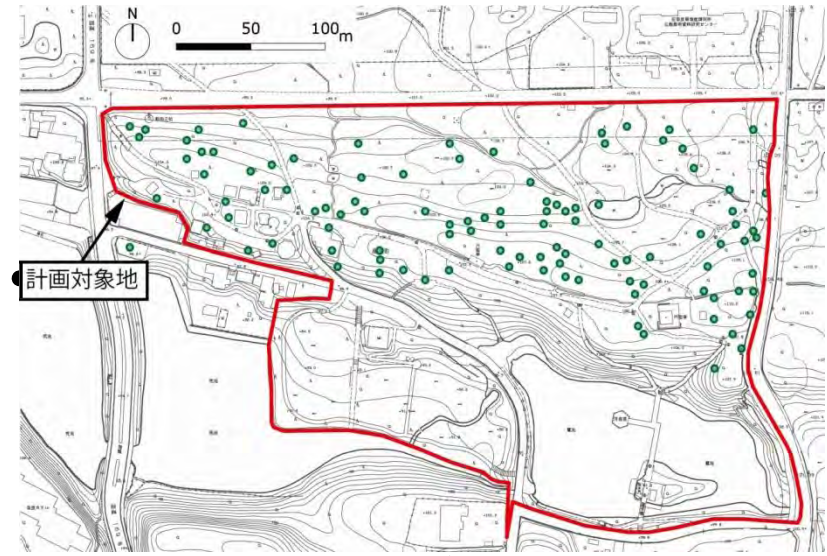


図: 1980年 幹周90cm以上のイチイガシの分布

※1980年データの出典: 奈良公園史自然編及び附図「平坦部樹木分布図」
 2017年データの出典: 奈良公園樹木管理台帳 (2017)

表: イチイガシの幹周階級別本数

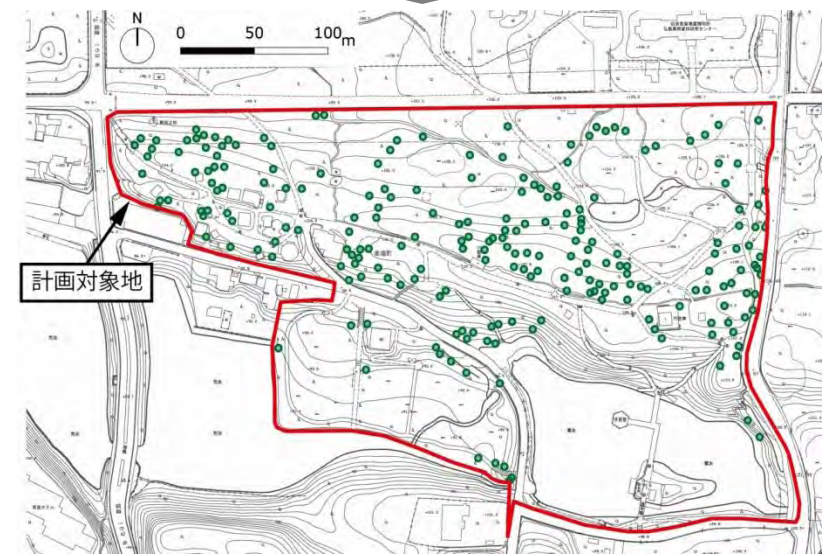
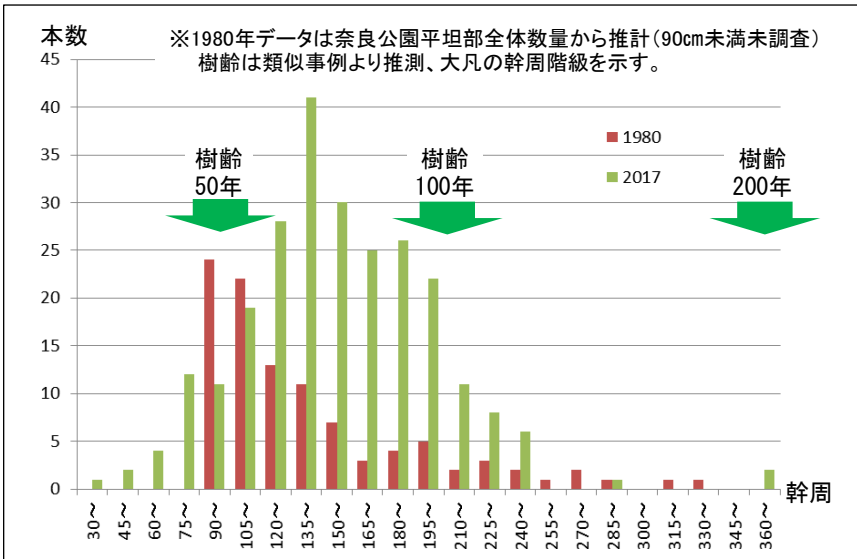


図: 2017年 幹周90cm以上のイチイガシの分布

3. 植栽・景観の分析・評価

(1) 植栽

5) 落葉広葉樹の分布と生育 ※コブシとハナミズキは花木に分類されるが、他の花木が多いため本項で掲載している。

分布

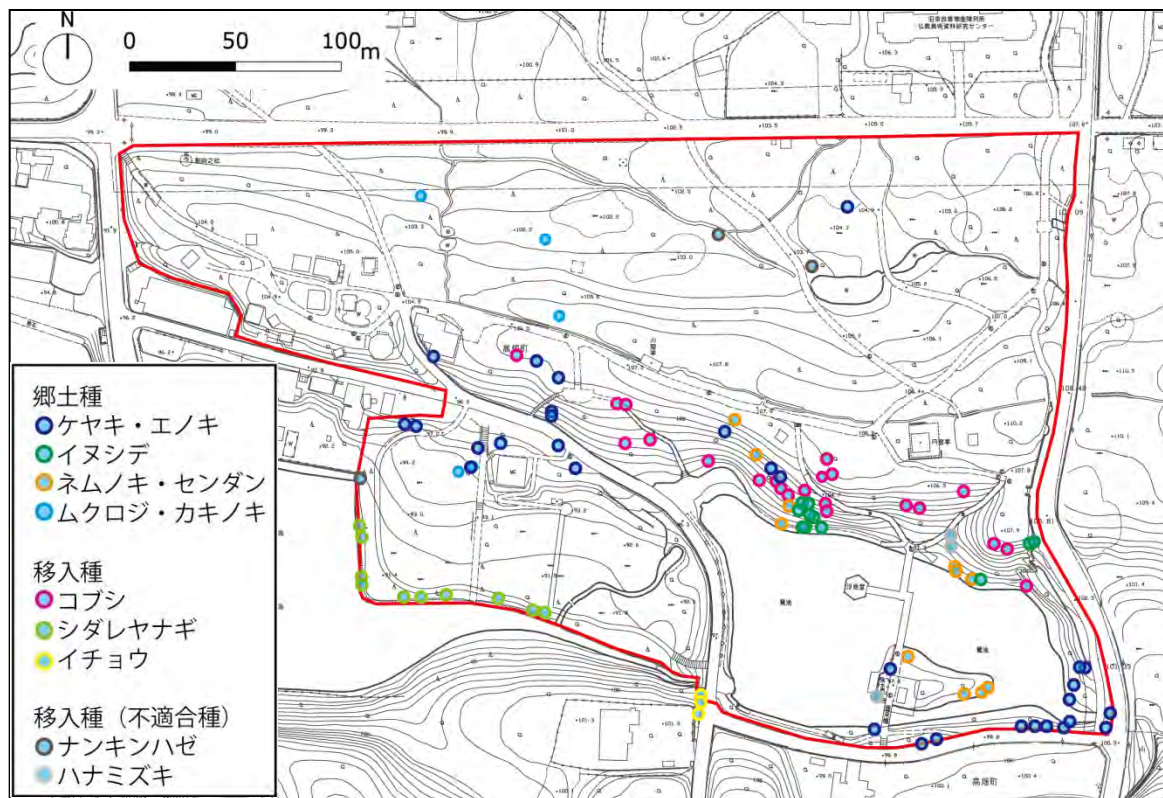
- ・ いずれの樹種も、鷺池周辺から荒池園地付近に多く分布している。
- ・ シダレヤナギは、荒池園地の水辺に分布している。
- ・ イヌシデ、ネムノキ、センダン は鷺池北側斜面地に分布し、自生木と考えられる。
- ・ コブシは、鷺池北側斜面地に分布している。
- ・ 移入種であるナンキンハゼ、ハナミズキは、数少ないが分布している。

生育

- ・ いずれの樹種も生育に問題はない。

評価

- ・ ケヤキ、エノキ、イヌシデ、センダン、ネムノキ、ムクロジ、カキは自然との調和を評価し、保全・継承すべきである。
- ・ シダレヤナギは、水辺の樹木として調和しているので、保全・継承すべきである。
- ・ コブシは他の花木との調和に配慮して、保全・継承を検討すべきである。
- ・ 移入種であるナンキンハゼは伐採、ハナミズキは移植すべきである。



図：落葉広葉樹の分布

樹種	本数		
	全数	幹周 2m~	幹周 3m~
ケヤキ	26	10	3
コブシ	24		
イヌシデ	11	2	
シダレヤナギ	10		
ネムノキ	8		
エノキ	5	2	
イチョウ	4	2	
カキ	3	1	
センダン	3		
ハナミズキ	3		
ナンキンハゼ	3		
ムクロジ	2	2	
合計	102	19	3

表：樹種別本数



鷺池北側斜面地：サクラ類、ケヤキ、コブシ、イヌシデ

3. 植栽・景観の分析・評価

(1) 植栽

6) 花木類の分布と生育

※コブシとハナミズキは花木に分類されるが、他の花木が多いため落葉広葉樹の項に掲載している。

分布

- ・ サクラ類は、尾根部園路から南斜面と荒池園地内に多く分布している。
- ・ ウメは円窓亭周辺から尾根部中央に集中して分布している。
- ・ モミジは鷺池水辺や浅茅ヶ原の池・流れ附近に多く分布している。
- ・ サルスベリは、鷺池水辺と荒池に分布している。
- ・ ツバキ類は、尾根部園路から南斜面の一部に分布している。
- ・ フジは、計画対象地全体に点在している。

生育

- ・ サクラ類、ウメは生育不良多く、枯死率高い。(特にナラノエザクラ、ナラノココノエザクラ)
- ・ モミジ、サルスベリ、フジ、ツバキ類の生育に大きな問題は無い。
- ・ 尾根平坦部と荒池水辺は排水不良が顕著に見られる。

評価

- ・ 花木類は、全般に生育不良改善の必要がある。
- ・ 大高木との調和を検討する必要がある。
- ・ ウメ(片岡梅林)は、歴史的経緯を評価し、今後も保全・継承すべきである。但し、密度の見直しと植替の検討が必要である。
- ・ サクラ類は、虚弱品種からエドヒガンやカスミザクラ、ソメイヨシノなどの強健樹種・品種への植替の検討が必要である。

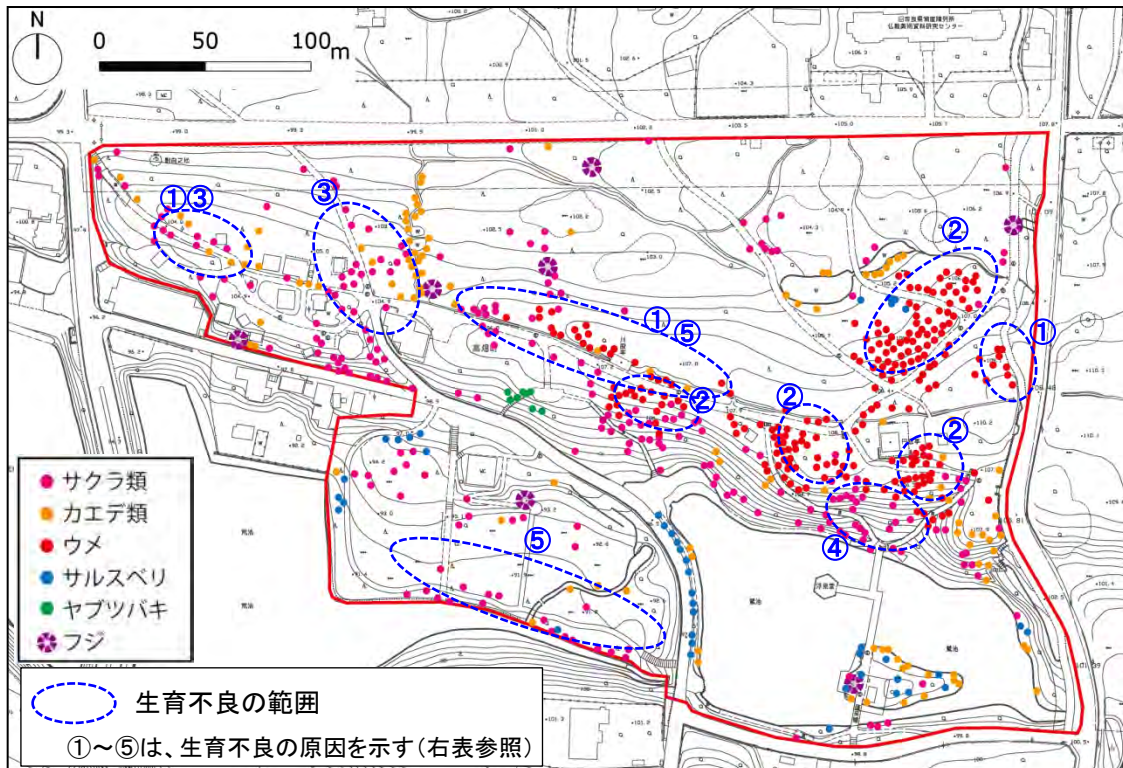


表: 樹種別本数

樹種	本数
サクラ (ナラノエザクラ、ナラノココノエザクラ、他)	198
サクラ (ソメイヨシノ)	30
エドヒガン	10
ウメ	224
イロハモミジ	108
モミジ(園芸品種)	8
サルスベリ	45
ツバキ類	11
フジ (箇所数)	13(7)
合計	634



片岡梅林



ソメイヨシノ

表: 生育不良の原因

	生育不良の原因	該当樹種・品種
①	大高木の被圧による日照不足	サクラ類、ウメ
②	過密による過剪定(想定)	ウメ
③	虚弱品種	ナラノエザクラ、ナラノココノエザクラ
④	寿命末期	ソメイヨシノ
⑤	排水不良	サクラ類ほか

図: 花木類の分布

3. 植栽・景観の分析・評価

(1) 植栽

7) アセビ・その他少数樹木の分布

① アセビ

- ・ 鷺池の北面の急傾斜地は、自生樹木と考えられる。
- ・ 円窓亭外周と東端道路沿いは植栽されたもの。
- ・ 急傾斜地や柵内のアセビは生育が良いが、公園内の平地のアセビは生育不良が多いことから、アセビもシカ食害の影響を受けていると考えられる。

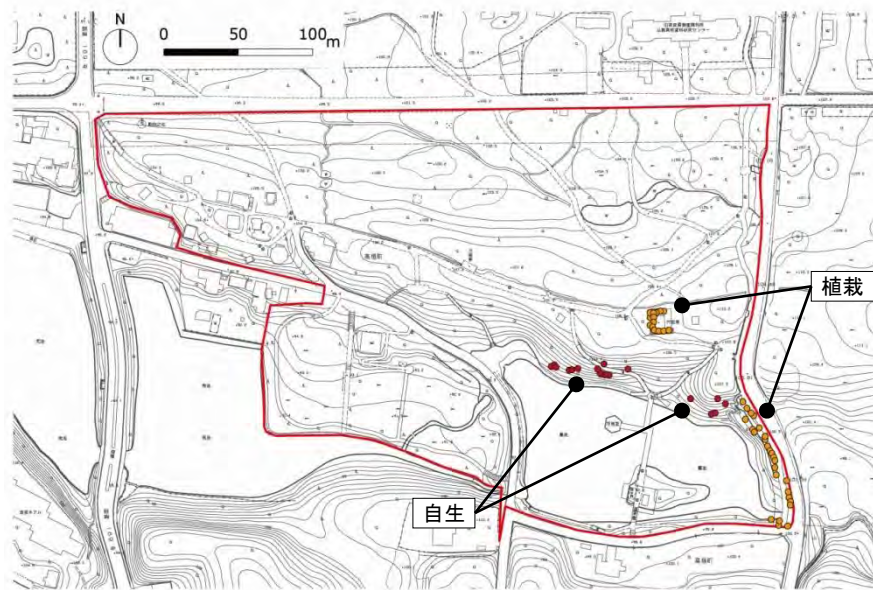


図: アセビの分布

② その他少数樹木 (24~26頁の一部を再掲)

- 自生樹木 (イガシ、シダモ、イヌシデ、センダン、ムクノキ、ナンキンハゼ)
 - ・ ナンキンハゼを除き、鷺池の北面の急傾斜地に分布。
 - ・ イヌシデは古木が多いが、他の樹種の樹齢は若い。
 - ・ シカの食害が少ない位置に分布している。
- 植栽樹木 (ムクロジ、カキノキ、コウヨウザン、ハナミズキ)
 - ・ ムクロジ、カキノキは古木。他の樹種の樹齢は若い。

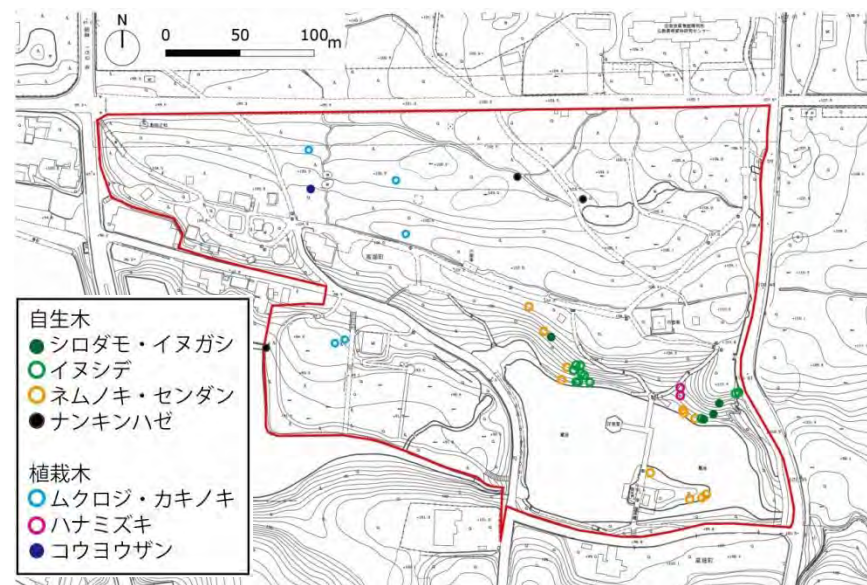


図: その他少数樹木の分布



アセビ



ムクロジ



コウヨウザン



ネムノキ



イヌシデ

3. 植栽・景観の分析・評価

(1) 植栽

●資料:問題の現状

日照不足の状況 (2月5日正午頃)



尾根部ウメ: 落葉期にも日陰



尾根部サクラ類: 同上



尾根部フジ: 同上

梅林の状況



過密な状況 樹木間隔は2~3m



幹の腐朽

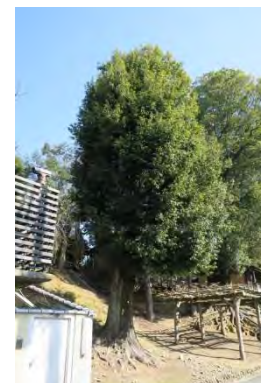


幹の腐朽・断裂

旅館群一帯の状況



生長した高木に被われる。



シラカシ:
強剪定後6年
幹一部腐朽

ケヤキ:
強剪定に起因
する腐朽か?



尾根部の排水不良



ナラノヤエザクラ等の状況



枯枝整理の結果



同上

3. 植栽・景観の分析・評価

(1) 植栽

8) まとめ(植栽の分布・生育の評価)

評価	現況を保全・継承
区分	改善して保全・継承

料理旅館群一帯 ー改善して保全・継承

- ・サクラ類(ナラノヤエザクラ、ナラノコノエザクラ他)、イロハモミジの花木類と、広葉樹やマツ類が混在。
- ・サクラ類は日照不足により衰退が著しい。
- ・建築附近の大木は落枝等による危険度が高い。
- ・建築との関係に配慮した配植の見直しが必要。

浅茅ヶ原中央南斜面 ー改善して保全・継承

- ・尾根と斜面上部はサクラ類やウメ等の花木が、斜面下部はカシ類やケヤキが占める。
- ・花木は日照不足で生育不良が多い。
- ・特徴や魅力が乏しい曖昧な植栽構成は、見直しが必要。

浅茅ヶ原北斜面 ー 現況を保全・継承

- ・春日大社と一体となり参道景観を形成している。
- ・イチイガシとスギを主にした大径木の樹林。
- ・マツ類を除き生育に問題は少なく、原則として現況の保全・継承が望まれる。

片岡梅林 ー 改善して保全・継承

- ・明治期以降に形成された梅林。
- ・ウメを主にイチイガシやマツ類等が点在する。
- ・ウメの過密や生育不良の改善のため、密度管理(植替)や被圧する広葉樹の抑制が必要。

鷺池北面花木林 ー改善して保全・継承

- ・サクラ類、ウメ、コブシ、イロハモミジ等の花木類が、混植されている。
- ・花木の生育は良いが、ソメイヨシノは古木で衰退しているため更新が必要。

鷺池東面広葉樹林 ー現況を保全・継承

- ・カシ類、クスノキ、ケヤキなどの大径木樹林。
- ・マツ類を除き生育は良い。
- ・道路の遮蔽植栽。

鷺池中島樹林 ー改善して保全・継承

- ・カシ類と多彩な花木の樹林。
- ・花木類の衰退が見られるため、更新が必要。

鷺池南面広葉樹林 ー改善して保全・継承

- ・カシ類、ケヤキ、サクラ類などの樹林。
- ・花木やカシ類の生育不良、衰退が見られる。

鷺池西面サルスベリ ー現況を保全・継承

- ・剪定管理されたサルスベリの並木
- ・サルスベリの生育に問題は無い。

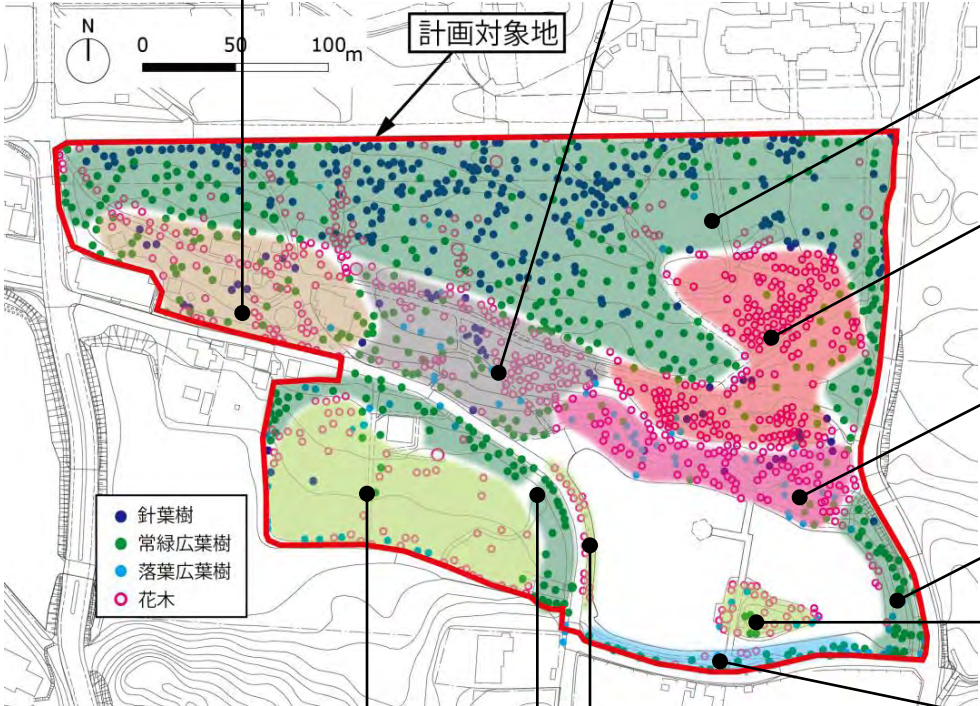


図: 植栽の分布・生育の評価

荒池芝地・疎林 ー 改善して保全・継承

- ・クロマツ、サクラ類、シダレヤナギ等の疎林。
- ・まとまった芝地が広がる
- ・池畔部は過湿で、サクラ類が衰退。

荒池外周広葉樹林 ー改善して保全・継承

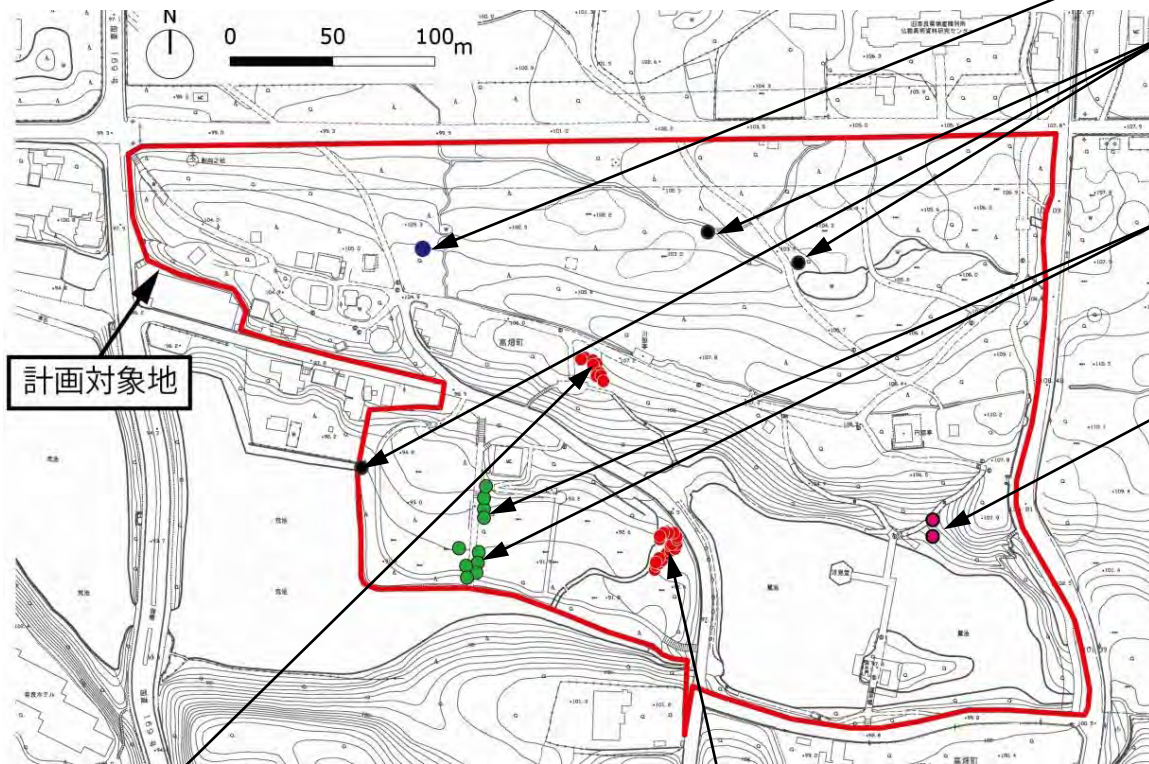
- ・カシ類、クスノキ、ケヤキ等の広葉樹の樹林
- ・一部の過密植栽を除き、生育は良い。

3. 植栽・景観の分析・評価

(1) 植栽

8) まとめ(不要樹木・不適樹木等)

奈良公園に相応しくない外来樹木や、過度に密植され生育不良や景観上の問題のある樹木については、伐採や移植等により問題に対処する必要がある。



- コウヨウザン (中国産外来種)
- ナンキンハゼ (中国産外来種)
- キンモクセイ (中国産外来種)
- ハナミズキ (北米産外来種)

図: 不要樹木・不適樹木等


イヌマキの密植 一択伐等

極端に密植されたイヌマキは択抜や配植の見直しが必要。



カシ類他の密植 一択伐等

湧水施設外周に密植されたカシ類等は、択抜や配植の見直しが必要。



3. 植栽・景観の分析・評価

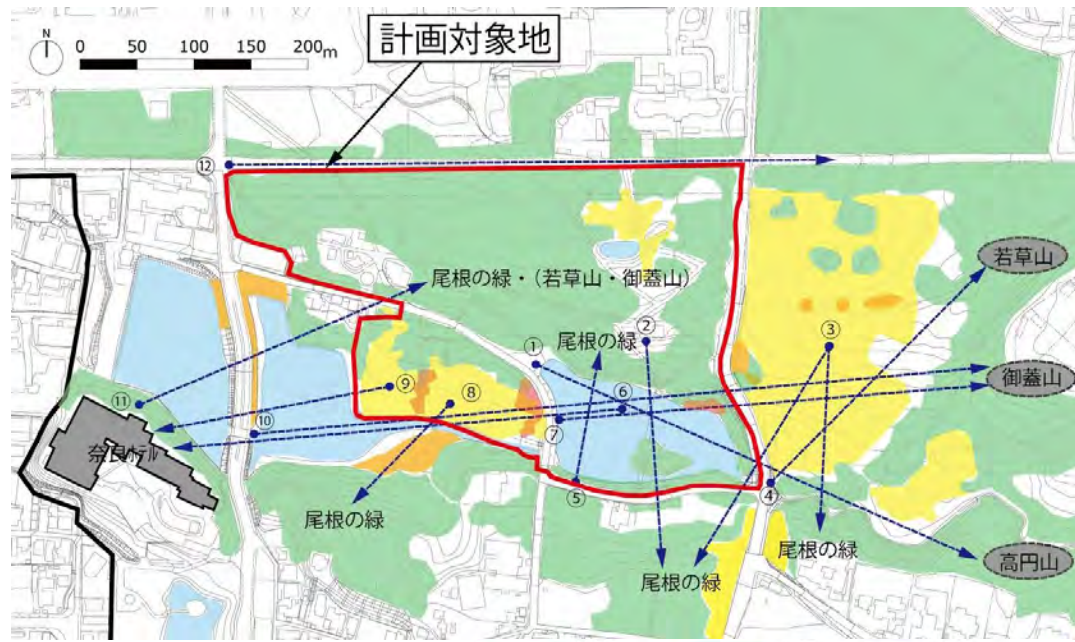
(2) 景観

1) 計画地一帯の主な眺望景観

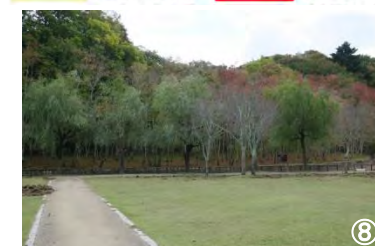


- 特に重要な眺望景観
- ① 鷺池から浮見堂・高円山
 - ⑦ 鷺池から浮見堂・御蓋山
 - ⑩ 荒池から御蓋山

出典：奈良らしい眺望景観 H23年
(奈良市眺望景観保全活用計画)



図：計画地一帯の主な眺望



(2) 景観

眺望景観

- ・計画対象地は、谷と両側の尾根が互いに視点場であり視対象となっているため景観に一体性があり、これが特徴的である。
- ・谷部には視線を遮らない池や芝地が占めるため、谷筋方向の眺望が良好で、重要な眺望景観には鷺池、浮見堂、奈良ホテル、御蓋山、高円山等の視対象が折り重なっている。(浮見堂はこれを意図して配置された可能性がある。)

2) 大正期の眺望景観



ア、イ 絵葉書 大正・昭和初期

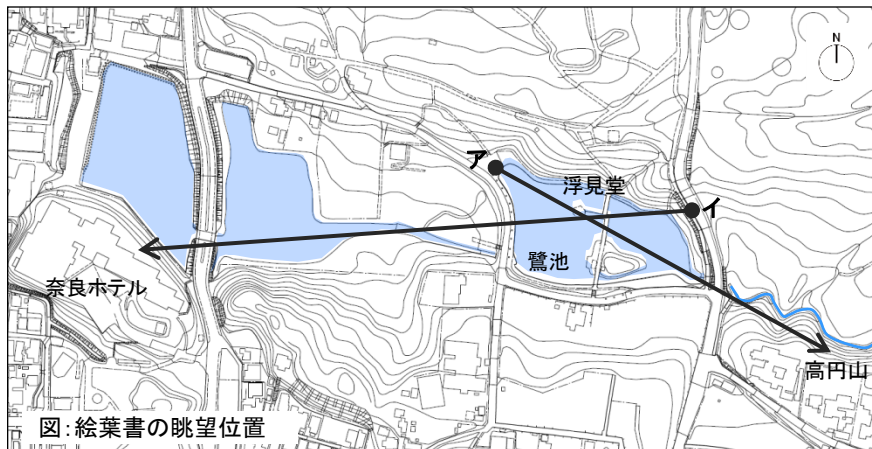


図: 絵葉書の眺望位置

3) 眺望のため保全・改善すべき植栽 (鷺池周辺)

A. 眺望景観のため保全すべき樹林・樹木

- ・眺望の視対象となる尾根の斜面樹林
- ・建築物や往来する車両を遮蔽する樹林・樹木

眺望景観のため保全すべき樹林・樹木

眺望景観のため樹高・密度を管理すべき樹林・樹木

A・B重複の場合

B. 眺望景観のため改善すべき樹林・樹木

- ・眺望の視線を遮る樹林・樹木

眺望景観のため択伐すべき樹林・樹木

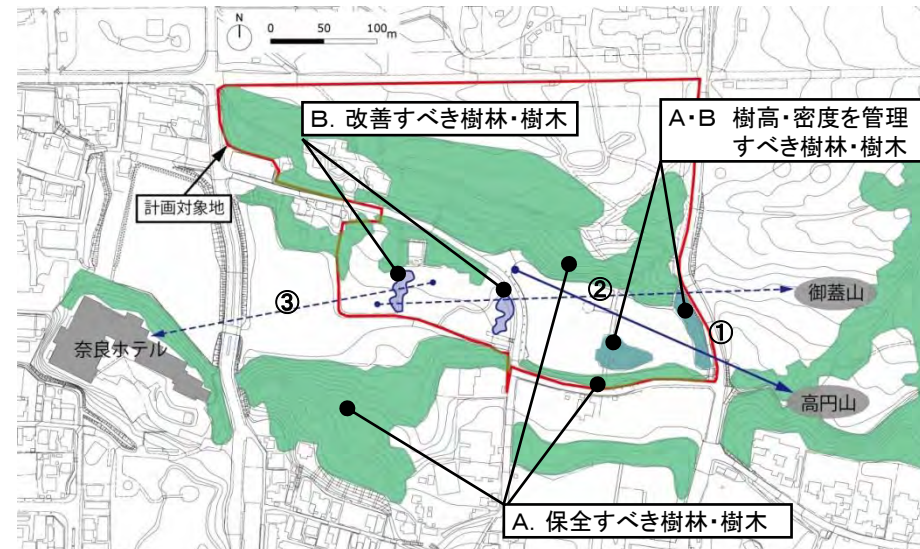


図: 眺望のため保全・改善すべき植栽



① 車両を遮蔽するが眺望に支障

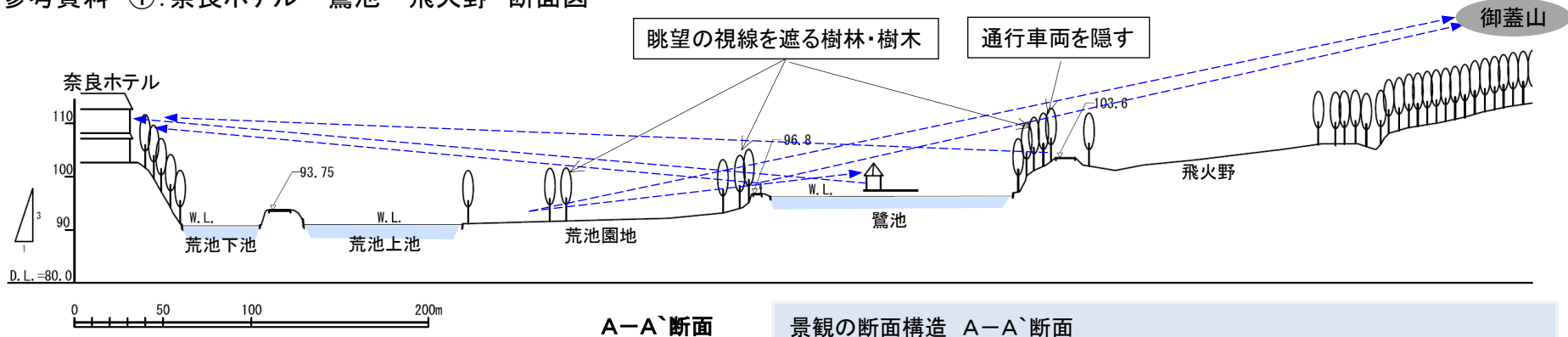
② 浮見堂や御蓋山を遮蔽

③ 奈良ホテルを遮蔽

3. 植栽・景観の分析・評価

(2) 景観

●参考資料 ①: 奈良ホテル～鷺池～飛火野 断面図



景観の断面構造 A-A'断面

- ・遮る樹木がなければ、荒池園地と鷺池の堤からは、御蓋山が見える高さ関係にある。
- ・遮る樹木がなければ、浮見堂と鷺池の堤からは、奈良ホテルが見える高さ関係にある
- ・鷺池東の樹木は眺望の視線を遮るが、通行車両を隠す効果もある。

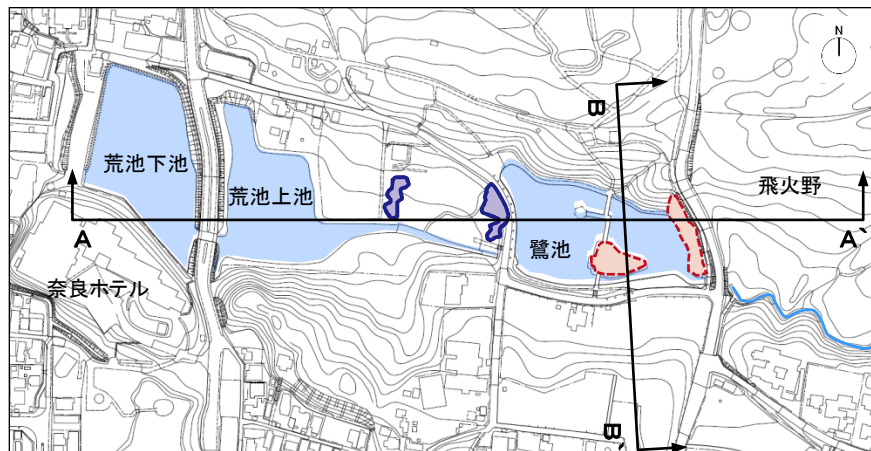
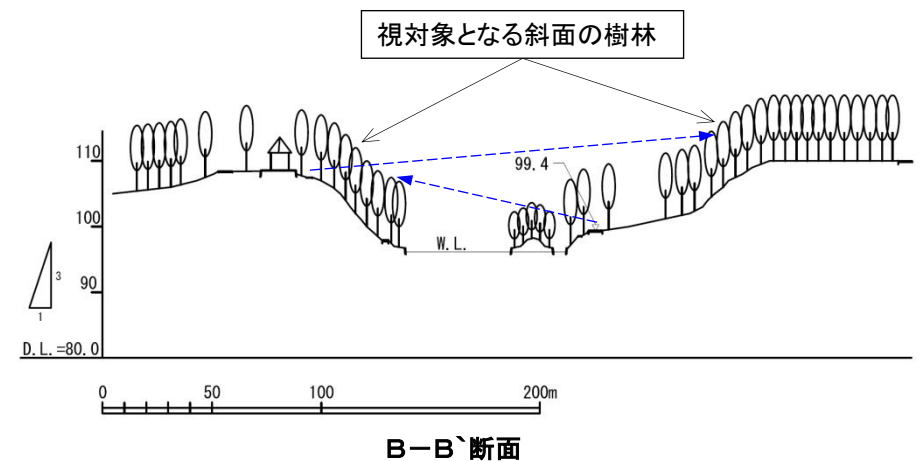


図: 断面位置

②: 円窓亭～高畑町裁判所跡地 断面図



景観の断面構造 B-B'断面

- ・率川水系(鷺池、荒池含む)を挟む谷地形であるため、視対象として斜面地の樹林が大きな存在となる。

(2) 景観

4) 明治・大正期から現在への植栽による景観変化

植栽・植生の変化

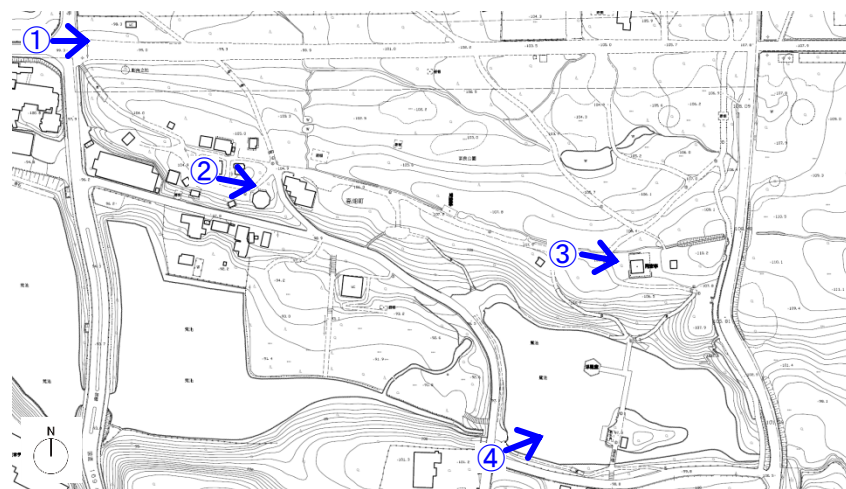
- ・マツの大木が姿を消し、イチイガシ等の常緑広葉樹が増加している。
- ・全体に樹木密度が高くなり、樹高も高くなっている。

景観に与えた影響

- ・樹木の増加と生長により、鬱閉度が高くなり、建築物や背景に見えていた山並みが見えなくなっている。

上段：明治・大正期の写真
下段：現在の写真(2019.2月)

※1 奈良縣名勝寫真帖：奈良県(明治43年 1910)
※2 大和名勝寫真帖：奈良県(大正4年 1915)
※3 奈良名勝寫真帖：奈良市(大正4年 1915)

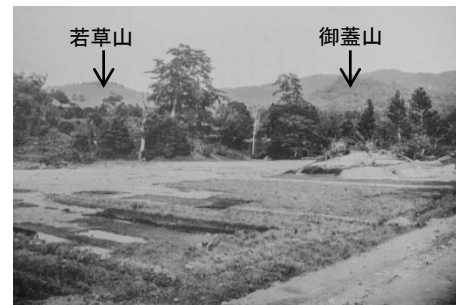


① 一の鳥居(春日大社参道) ※2

② 円窓亭・片岡梅林 ※2

③ 八方亭 ※3

④ 鷺池(整備前) ※1



(上) クロマツやスギが並ぶ。路面は明るい。
(下) 鳥居周辺のマツは同じ。路面は暗い。

(上) 円窓亭とウメ、背景に御蓋山、春日山。
(下) イチイガシが円窓亭やウメを被う。

(上) クスノキ?とアセビ
(下) イチイガシとマツ、サクラ類。アセビなし。

(上) 尾根にマツ大木点在、若草山が見える。
(下) 樹木生長により、若草山が隠れている。

3. 植栽・景観の分析・評価


(2) 景観

5) まとめ(植栽の景観評価)

評価	現況を保全・継承
区分	改善して保全・継承


春日大社の参道景観を形成する樹林
— 現況を保全・継承

- ・参道景観を形成するスギ、クロマツ、ヒノキ、モミの保全継承が必要である。
- ・他の春日大社境内地と同様に、スギやイチイガシ、フジの保全が望ましい。




鷺池へのアプローチ樹林
— 現況を保全・継承

鷺池へのアプローチ両側の樹林が、景観展開の効果を高めていることから、保全・継承が望ましい。



円窓亭(移設予定) 附近の植栽
— 改善して保全・継承

円窓亭移設後の状況にあわせて、梅林にふさわしい植栽になるように見直すことが必要。




道路への視線を遮蔽・緩衝する樹林
— 現況を保全・継承

道路への視線を遮蔽・緩衝するカシ類やスギ等の保全・継承が望ましい。


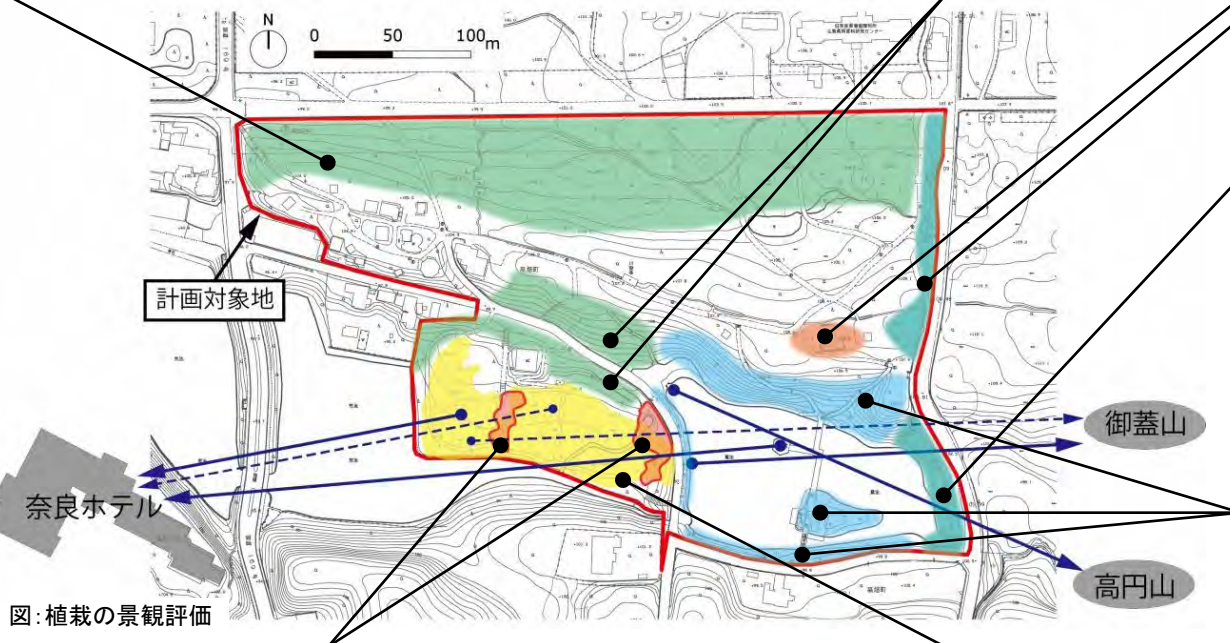
高円山への眺望を保全する樹林
— 現況を保全・継承

高円山への眺望に際し道路への視線を遮蔽・緩衝する樹林の保全・継承が望ましい。




鷺池の池畔を彩る季節感のある植栽
— 改善して保全・継承

花や紅葉など季節感のある植栽が特徴。一部樹木の生育や配植等の改善が必要。

眺望を阻害する樹林
— 改善して保全・継承

荒池園地から御蓋山や奈良ホテルへの眺望を阻害している樹林は、択伐等の対策が必要。



眺望を担保する芝地
— 現況を保全・継承

荒池園地から御蓋山や奈良ホテルへの眺望を担保し、眺望点となっている芝地は、保全・継承が望ましい。

図: 植栽の景観評価

3. 植栽・景観の分析・評価

(3)まとめ

1)課題の整理

これまでの分析・評価を踏まえ、植栽計画に向けての課題をとりまとめる。

①植栽・景観の特徴

●歴史的経緯の影響を受けた植栽・景観

計画対象地は、春日大社の旧境内地に由来するところと、明治中期以降の公園整備によって形成されたところがあり、植栽・景観はこの二つの歴史的経緯に大きな影響を受けている。また、この二つが重なり合うところは、両方の要素が混在している。これらのことから、計画対象地は植栽・景観の特徴によって三つのゾーンに区分できる。

- ①春日大社の参道景観を形成しているところ
- ②尾根部の植栽・景観を形成しているところ
- ③鷺池一帯の開放的な景観があるところ
(ゾーンの内容と区分は37頁の図を参照)

●計画対象地の特徴

計画対象地の植栽・景観は、植栽の歴史的経緯や地形、景観要素が異なるものが隣り合いながらも連続した景観が形成され、公園として一体的に利用されているところが特徴である。また、計画対象地の周辺には、計画対象地と同質性が高い植栽・景観をもった空間が連続していることも特徴である。

つまり、計画対象地あるいは奈良公園の植栽・景観の保全のためには、上述した3つのゾーンそれぞれの特徴を活かしつつ、計画対象地全体と周辺地との調和を図ることが望まれる。

②植栽・景観の変化と現況の問題点

●植栽等の変化

計画対象地の植栽等は、公園開設以降の植栽整備や樹木生長、シカの影響増大などによって姿が大きく変化している。

- ・全体に樹木密度が高まり、樹木が生長し、鬱閉度が高まっている。
- ・マツ類が衰退し、イチイガシやスギ等が増加し、生長している。
- ・浅茅ヶ原の尾根部のアセビが無くなっている。(日照やシカの影響と考えられる。)

●現況の問題点

上述した植栽・景観の変化によって、幾つかの問題を引き起こしている。

i) 花木の生育不良

全体に鬱閉度が高く、花木と他の高木が混在するところでは、カシ類やニレ類が花木など日照を好む樹木を被圧して、生育不良や衰退を引き起こしているところが多い。花木だけのところも、花木の植栽密度が高いところでは、花木相互の競合により生育不良が生じている。

ii) 眺望景観等の障害

樹木生長によって樹高が伸長し枝葉が繁茂したため、眺望を障害している。同様に円窓亭などのランドマークとなる歴史的建造物が隠れている。(但し、円窓亭は移設予定)

③将来に向けての課題

●将来に向けての課題

現在までの植栽の変化から、今後の植栽の生長・衰退を推測すると、更なる問題が生じる可能性がある。

i) 花木の生育不良

現況植栽の状況からすると、今後植栽の鬱閉度は更に高くなり、花木の生育不良や衰退が激しくなると考えられる。

ii) マツ枯れ・ナラ枯れ・台風

マツ枯れは長年にわたり発生しており、マツ類の枯損は著しい。近年はナラ枯れの発生も見られる。共に大径木化が罹病の誘因の一つであることからすると、十分な対策が望まれる。また、過去及び近年の記録によると、台風被害が大きいことから、これへの対策が望まれる。

iii) 将来訪れる世代交代

今後の生長・衰退の先に訪れる世代交代に備えることが望ましい。

参考：台風被害の記録

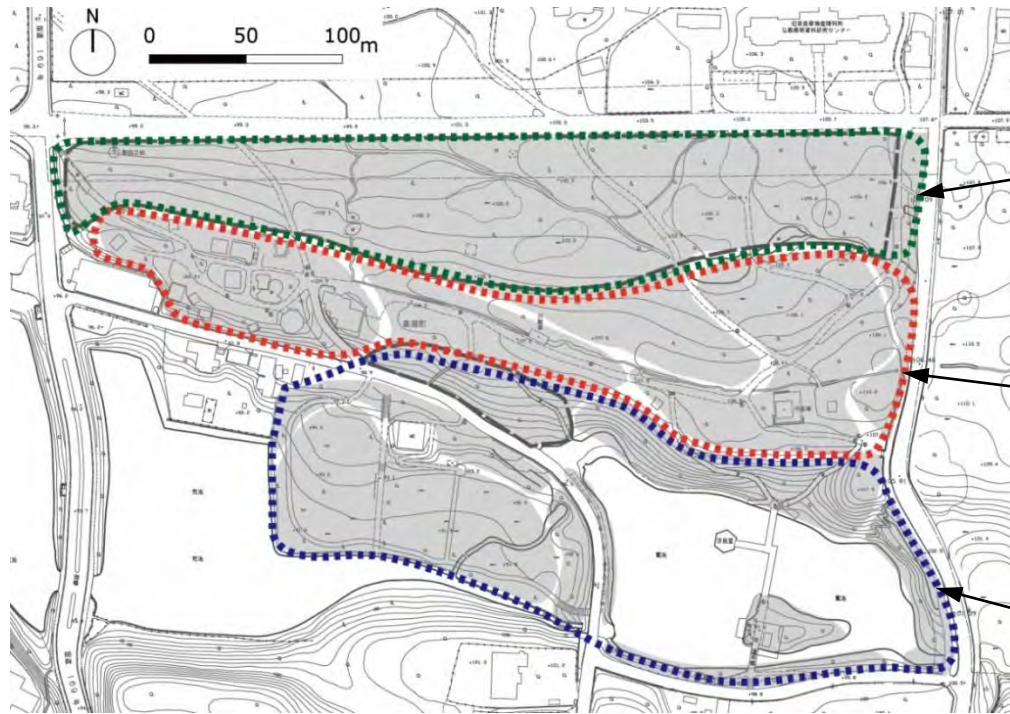
1961 第2室戸台風	
・公園地の平坦部	被害木約2000本
・山林、社寺含む全域	被害木 10万本以上
2018 台風21号	
・社寺含む平坦部	風倒樹木 180本以上

3. 植栽・景観の分析・評価



(3)まとめ

2) 植栽・景観の特徴によるゾーン区分

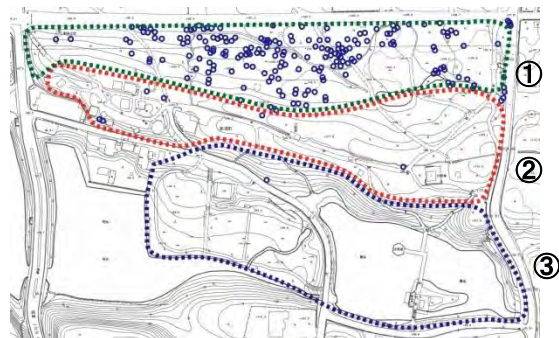
これまで分析・評価した植栽・景観の特徴に基づいて、ゾーン区分を行った。



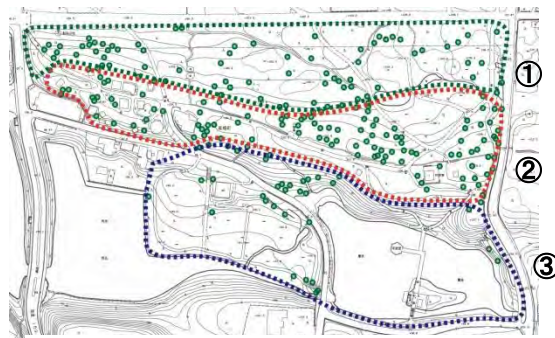
図：植栽・景観の特徴とゾーン区分

 図：植栽の分布・生育の評価(29頁)の評価単位
 図：植栽の景観評価(35頁)の評価単位
 ※評価単位が重複するもの、エリアにならない単独ものは省略している。

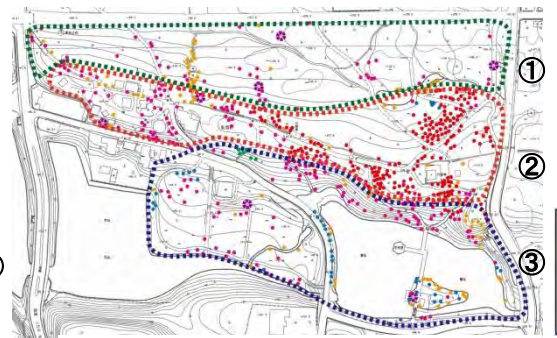
- ①春日大社の参道景観を形成しているところ
 - ・春日大社旧境内地に由来するところ
 - ・春日大社境内地と一体となった参道景観が特徴。
 - ・スギとイチイガシが多く分布しており、巨木も多数見られる。
 - ・参道景観の構成要素であるスギの分布域をゾーン範囲とする。
- ②尾根部の植栽・景観を形成しているところ
 - ・春日大社旧境内地に由来するものと公園整備によって形成されたものが重なり合うところ
 - ・尾根の園路から北の参道と南の鷺池の両方が俯瞰できる。
 - ・イチイガシと花木類が多く分布している。
 - ・円窓亭や旅館などの小規模建築が点在する。
- ③鷺池一带の開放的な景観があるところ
 - ・公園整備によって形成されたところ
 - ・水面や芝地の拡がりによる開放的な景観が特徴
 - ・御蓋山、高円山、奈良ホテル等に向けた眺望景観が魅力。
 - ・花木類や落葉広葉樹が多く分布している。
 - ・鷺池や荒池園地の景観を構成するところをゾーン範囲とする。



図：スギの分布・・・概ね①に包含される



図：イチイガシの分布・・・概ね①②に包含される



図：花木類の分布・・・概ね②③に包含される。

- サクラ類
- カエデ類
- ウメ
- サルスベリ
- ヤブツバキ
- フジ